動労千葉

動労千葉結成10周年！

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）

電話 （鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

1989.6.7 No.3040

リクルート疑獄・消費税導入を許すな

今こそ自民党をうちたおそう

宇野内閣による汚職と腐敗の居直りを許すな

五月二九日東京地方検察庁は、リクルート疑獄の捜査終了を発表した。政界関係はこれにより、藤波（自民）池田（公明）の二人の代議士の在宅起訴と、秘書四人の略式起訴のみという結果で終った。

自民党の居直りを許すな

また中曽根は、検察の手が自らにのびないことを確認してから、国会の承認喚問に応じ、自民党から離党することで「ケジメをつけた」と居直っている。

こうした事実上の指揮権発動と中曽根の犯罪をかくし、一方で竹下から宇野へとクビをつなぎかえることで自民党は国民の怒りをかわそうとしている。さらにペテン的に「政治改革」と称して「小選挙区制」を導入することで自民党支配を強化しようとしている。

自らは利権や汚職で私腹をこやしながら、四月からの消費税強行導入やかずかずの福祉きりすてをおこなってきた中曽根や竹下。国鉄分割民営化の過程で百数十人の自殺者を出し十万人以上の労働者の首を切り、いまなお数千の労働者を清算事業団に強制していながら、自分達はそれで利益をむさぼる、こんな連中を絶対に許すことはできない。

中曽根をはじめ、竹下、安部ら政府・自民党の中枢のほとんどすべてにわたったリクルート汚職は、自民党政治とりわけ中曽根内閣の政治がいかに腐敗しているかを、はっきりとさし示すものとなった。NTTの民営化、国鉄分割民営化、民間活力の導入といったことが、汚職と利権獲得の道具となっていたことを白日のもとにさらけだした。

ところが大本命である中曽根を「職務権限が立証できないとして、捜査を終了したことは、これ以上やると自民党内閣が崩壊することに政府・法務省・検察当局が恐怖したからである。また中曽根が直接関与したスーパーコンピューター問題や、政府税制調査特別委員会への江副の登用問題には全くふれていない。

今こそ怒りをもってたちあがろう

こうした自民党を財界と一緒になって支えているのが「連合」、とりわけ鉄道労連革マルだ。選挙と政治献金で自民党をささえ、自らの要求を自民党に要請している鉄道労連革マルは、当然のことながらリクルート問題に一言の声も上げられずにいる。中曽根と一緒になって利益を得てきたのが他でもない革マル松崎だからだ。今こそ中曽根ともども鉄道労連革マル松崎を怒りをもって打倒する時だ。

職場生産点でのたたかいを強化しながら、六月千葉・船橋両市長選、七月東京都議選・参議院選を全力でたたかいぬこう。

弾劾

バッチ着用への不当処分を許すな

千葉支社当局は、わが動労千葉組合員に対し、組合バッチ着用は「服装違反」として不当な厳注処分を加えてきた。

われわれは激しい怒りをこめてこれを弾劾する。

そもそも組合バッチ着用問題は、三月二一日の東京都労委でも明確に「バッチ着用は正当な組合活動」「バッチ着用で職場規律や業務に支障したとか、そのおそれがあったとは認められない」「組合活動を理由とする不利益扱いであり労組への支配介入である」と、当然のように命令されているのである。

しかるに、JR当局・千葉支社は、都労委命令さえ踏みにじり、挑発的ともいえる不当労働行為、組織破壊に出たものであり、断じて許せるものではない。加えて、千葉支社は処分を意図的、選別的に出すなど、見えすいた組織かく乱をも策している。

われわれは、かかるJR当局・千葉支社の不当処分を激しく弾劾し、不当に処分された仲間を組織的に包み、断固反撃していこうではないか。

清算事業団 地労委

- 6月13日 14時から
- 6月17日 10時から

それぞれ 千葉地労委にて

サークル協議会

- ボウリング 10日
- 囲碁・将棋 11日

全組合員が血を流し、涙を流し、そして勝利した10年！